

待望の発刊!

伊那小学校30年間の歩み、そして現在——

共に学び共に生きる ①・②

① 伊那小教育の軌跡

伊那市立伊那小学校

監修/文教大学・同大学院教授 嶋野道弘

② 伊那小教師の物語

伊那市立伊那小学校

監修/福井大学大学院教授 松木健一



社団法人 信州教育出版社

およそ30年前 伊那小総合学習の黎明期を著した本

『内から育つ子ら』『自ら学ぶ』がオンデマンド出版で復刊予定!

『内から育つ子ら』 (昭和55年発行)

小学校低学年における総合学習の展開

『自ら学ぶ』 (昭和56年発行)

教科・道徳・特別活動の核となる総合活動

詳細は、信州教育出版社ホームページにてお知らせします。

▶ <http://www.shinkyo-pub.or.jp/>

発行  信州教育出版社 長野市旭町1098 ☎026-232-0291

取扱い  株式会社 しんきょうNET 本社 長野市旭町1098 ☎026-233-1135

下の注文書をご利用いただき、しんきょうネットまでFAXにてお申し込みください。

FAXフリーダイヤル **0120-25-1098**

共に学び共に生きる ①・② 注文書

下記のとおり注文します。

平成 年 月 日

右の表に、ご注文の内訳をご記入ください。

《学校関係の方》

学 校 名	学校
注文責任者氏名	

《学校関係以外の方・長野県外の方》

電話番号	
お届け先 ご住所	〒

注文者氏名 (公用の場合は「公用」と記入)	2冊セット ケース入 2940円(税込)	共に学び 共に生きる① 伊那小教育 の軌跡 1470円(税込)	共に学び 共に生きる② 伊那小教師 の物語 1470円(税込)
計	セット	冊	冊

【学校関係以外・長野県外のお客様へ】

※別途送料500円がかかります。お支払いは郵便振替となります。

※FAXフリーダイヤルは長野県内のみです。県外よりお申し込みの場合は、

E-mail : sales06@shinkyo-net.co.jp または TEL : 026-233-1135 までお願いいたします。

共に学び共に生きる 1



— 伊那小教育の軌跡 —

監修 文教大学・同大学院教授 嶋野道弘

一 内から育つ

- ・にわとりと共に〈昭和52年度〉
- ・与作の家〈昭和56年度〉

・総合学習に内包される教科学習
 ↳遊びの中で獲得していく長さの概念〈昭和54年度〉

・ふるさとの川に親しんで
 ↳天竜川にかかわる学習から〈平成7年度〉

・牛のメイちゃんと言組の子どもたち
 〈平成4〜7年度〉

・シジュウカラを追え
 ↳直組野鳥観察〈平成6、7年度〉

・もう一つの教室 湧き水の森で
 ↳いのちを感じて〈平成14、15年度〉

・伊那小学校の桜を守ろう 〈平成16〜18年度〉
 ・羊さんといっしょ 〈平成20〜22年度〉

二 「内から育つ」実践事例から

三 伊那小の総合を語る

— 元研究主任座談会 —

四 伊那小教育を語る

— 元校長へのインタビュー —

五 歴代学級題材一覧

共に学び共に生きる 2



— 伊那小教師の物語 —

監修 福井大学大学院教授 松木健一

一 “まこと”に生きる教師たち

- ・とらわれを棄てる
- ・子どもは無為にしてそこにいるのではない
- ・子どもから生命が付与される
- ・教師にとって授業は暮らしてある
- ・学校は「詩境」でなければならぬ

二 伊那小に在籍した教師の語らい

三 伊那小での学びを語る

— 卒業生へのアンケート調査より —

●仕様

A五判 並製 カバー装 ケース入り
 ①二二四ページ ②二四〇ページ

●定価

ケース入り二冊セット二九四〇円(税込)
 各一四七〇円(税込)

伊那小教育三十年をふりかえり、 教育の本質を探究し創造する本

三十年ぶりに、伊那小教育を語り尽くし、これを世に問う本が出版された。この本には、珠玉の実践事例とともに歴代校長の談話や歴代研究主任の座談会での話などが掲載されている。それらの全編に、教育の根本に立ち、また、時代の変化や時勢の流動に対応し、柔軟でありながら、ゆるぎのない教育の実践をめざしてきた伊那小の取組が赤裸々に語られている。

一読すれば、伊那小の全ての教師が、一貫して教育理念・原理といった教育の精神を確かにしつづつ、それを実践に具現しようとする切迫感と研鑽を積んできたことを感じるだろう。伊那小教育には、例えば「はじめに子どもありき」等の教育の精神となる教育理念・原理がある。それを美辞麗句にせず、それに基づいたあるべき教育の形を創造している。教育の精神と形の合一を図り続ける教育は、常に新鮮で陳腐にはならない。

伊那小の子どもは、のびやかに材や友とかかわり、自ら求めるところに向かつて活動し、一人前の人間として成長する過程を歩んでいる。伊那小の教師は、実践を自省・自問し、本を読み、先輩・同僚と語り合い、自身の子どもも親や教育観を構築していく。子どもも教師も成長している教育実践は清々しいものである。

優れた教師を志す者は、何よりも授業の腕を上げる必要がある。だが、それが技術で終わってしまうのではない。子どもと教師の息遣いや空気までもが伝わってこなければ、優れた授業にすることはできない。有難いことに、この本にはそうした境地がありありと描き出されている。得ることが多々あると思われる。

この本は伊那小教育のエッセンスである。この本を読むとあなたにも教育への希望と情熱とロマンと、内からの活力がわき上がってくることを信じて疑わない。

文教大学・同大学院教授 嶋野道弘

真の子どもの主体性を見取る 教師の主体性と協働のプロセスが彷彿とする本

教育が、理性を持った自律的な個の育成を目指して行われることに何の疑いもないのだが、伊那小学校の子どもたちを見ると、このような「近代的な個」とは幾分異なつたニュアンスを感じることがある。「はか／＼なさ」を知っている安堵感というか、軽やかさ、たくましさのようなものを感じるのである。個人の力では、はかる（「測る」「計る」「図る」「諮る」「謀る」）ことのできないことがあることを、活動の中で体験的に理解しているような人の在り方である。動物を飼えば、思いに反して別れや生き死にに直面する。作物だつて思うようには育たないばかりか、大切に思っても最後は食べてしまう。そしてまた、それが美味しい。そのような感覚である。

無常を語る唐木順三が伊那小教育にいきっている。無常をつきつめた先に、無常が反転して自然と合一し、融解して還元した姿を、唐木は伊那小学校の子どもたちの中に見ていたのではない。子どもたちは総合学習の中で直感している。生きていくためには、他の生物の命を貫かなければならず、自分一人では何もできないちっぽけな存在であることをよくよく心得ている。理性を武器に明晰に自己を主張する「近代的な個」を育てる教育が、忘れかけていた鈍いがたくてずっしりした「主体性」を育てる教育が、伊那小には息づいている。

伊那小学校が本を著すのは三十年ぶりである。この間に世界は一段とグローバル化し、一国ではどうすることもできない行き詰まり感の中で、泥沼の経済不況や自然災害が多発している。まずは教育から立て直すことなのであろう。骨太の「主体性」を育てる教育、それは時代の要請なのである。伊那小の本は著すべくして著された。そんな気がしてならない。

福井大学大学院教授 松木健一